



「教職の魅力」を考える 1

～ センター所員や教職員の声から ～

令和5年7月 神奈川県立総合教育センター

神奈川県立総合教育センターでは教育人材の確保に向け、「教職の魅力」を広く発信していきたいと考えています。この資料は、当センターの所員、また研修講座を受講された現職の教職員の皆さんから、教員という仕事の魅力や、経験の中で実感する醍醐味、遣り甲斐などについて、頂いた回答をもとに作成しました。

子どもたちとのつながり

- ・小学部1年時を知っていた子どもが青年となり、勤め先に向かう早朝の駅で「先生おはようございます。」と大声で挨拶をしてくれました。
- ・初めての卒業式は生徒たちとの**珠玉の時間**でした。卒業生の呼名をし始めた瞬間に、生徒たちとの様々な思い出が走馬灯のように蘇り、涙で詰まって十分な呼名ができませんでした。その後のホームルームでは生徒たちから感謝の言葉をもらいました。もちろん涙涙。教職でしか決して味わうことができない夢のような1日でした。
- ・異動で引越しをする際、受け持った子どもたちがわざわざ**見送りに**来てくれました。その後、その地に行った時にも**集まって**くれました。
- ・教師1年目に担任した児童たちに20年ぶりに会う機会がありました。話をしていると当時の思い出がよみがえり、自分も大人になった児童たちも、自然と笑顔になりました。中には、当時自分が何気なく言った一言を「**今でも覚えている**」と言ってくれた子もいて、少しの恥ずかしさとともに大きな責任と喜びを感じました。子どもたちの成長と人のつながりを改めて感じ、教師という職を選んでよかったと思えた出来事でした。
- ・教師になりたての頃、一番苦労したのは生活指導でした。生徒たちに反発され私がやり込められることもありました。そんな彼らと大人になって再会し「本気で心配してくれた」「先生のおかげで外れなかった」と感謝してくれたときにはなんと嬉しかったことか。力不足でも**懸命だったことだけは伝わっていた**のですね。

子どもたちの変化・成長

- ・授業で覚えた歌や、身に付けた言葉等を、卒業後も楽しく生き生きと使って、周りの人とコミュニケーションを取っていた生徒がいました。**学んだことを自分の力**にして、世界を広げている本人がすごいのですが、手伝いが少しでもできたことは感無量でした。
- ・学習の理解・定着に時間のかかる児童がいました。「ここまでできればOK」ラインを伝え、できている事や、取り組み過程の良さをこまめに伝えたとこ、夏季講座にも参加するなど、**粘り強く取り組むよう**になりました。その姿勢に、こちらが学ばされました。
- ・小さなことでも、「できるようになるといいな」と思ったことに向かって、子どもが取り組む姿は、とても眩しく感じます。それを間近で見られることや、保護者とともに喜ぶことが、とても幸せです。スプーンでご飯がすすめるようになったこと、順番を待てるようになったこと、「トイレに行きたい」と言えるようになったこと、名前が書けるようになったこと、一人で歩けるようになったこと…。いろいろな**子どもたちの顔が浮かびます**。
- ・初任の高校で、遠方から通学する生徒がいました。その生徒は、学習で躓くことが多い生徒でした。しかし、粘り強い生徒でした。3年生になると朝早くから学校に来て、自習をするようになりました。自然と学年の教員がサポートをするようになりました。3月、その生徒は志望校に合格しました。**職員室は喜びに**包まれました。
- ・集団行動が苦手な生徒やコミュニケーションが苦手な生徒など様々ですが、こちらから**働きかければ働きかけるほど成長**を感じることが出来ます。その生徒が上級生になり、後輩に優しく教えている姿をみると、

頑張りが報われたと実感することができます。

子どもたちから学ぶ

- ・生徒の自治活動の育成に取り組んでいた頃、阪神淡路大震災がありました。学級委員を呼び、震災のことを告げると、その生徒は「先生、もう募金をしているよ」と答えました。それを受け、生徒会やPTAでも取り組むことになりました。生徒の力を強く感じた出来事でした。
- ・高等学校定時制課程で様々な生徒と関わることができました。中学まで不登校だった生徒が4年間の学校生活を通して多くの級友と交流できるようになっていく姿や、高等学校を一度は退学したものの一念発起して30歳で定時制への入学を決断、入学後も3年間自らの信念を貫いて学び続け、卒業後は専門学校へ進学していく姿などを、間近で見ることができました。
- ・子どもたちの言動から、自分が当たり前だと思っていたことを見直せたり、これまでなかった視点を得たり、教員としての幅を広げることができました。
- ・英語の質疑応答で、なんとか自分の考えを伝えようとする生徒の姿に、「自分の考えを知ってもらいたい」というコミュニケーションへの強い気持ちを感じました。そんな勇氣ある生徒の姿に励まされ、言語を学ぶ意味を改めて考え、英語を教えるという仕事の魅力を再確認することができました。

教職員の心意気

- ・私は仕事として教員をしています。生徒にとって教員はビジネスのパートナーではないです。彼らの人生に大きな影響を与える存在として、常に理想と夢を忘れずに生きていかないといけないと思っています。
- ・目指すは「子どもの目線に立った教師」。私は全てが人並みか、それ以下の子どもでした。友達をいじめたことも、友達にいじめられたこともあります。だからこそ、そうした目線を忘れずに勉強でも生活でも「今、

苦しんでいる子ども達」にどう手を差し伸べればよいか、時には放っておいた方がいいのかがわかります。それを実行できる、家族の次に近い存在が教職。私にとってはそれが一番の魅力でした。

- ・修学旅行で地元の方たちと触れ合うため「祭り」を企画しました。生徒も積極的に催し物を企画し、教員以外の大人と一緒に運営するなど貴重な体験ができました。子どものために様々なことを考え、継続的に実行することができるのも教員の魅力かなと思います。

初任者たちの声より

- ・子どもが「できた」「わかった」「楽しかった」「悔しい」などを実感している場面に出会えるとき。力を入れて準備したことや、自分の思いを伝えたときに、子どもに伝わり行動してくれた時にやりがいを感じます。
- ・子どもたちの笑顔が見られること。一緒に何かを成し遂げたときに喜びあえること。伝えたいことが伝わって共有できたとき良かったなって思います。
- ・自分たちが社会の担い手であると同時に、未来の担い手を育てるというのが醍醐味であると思います。また、その未来の担い手となる生徒の記憶に残ることができるというのは、教員の魅力であるように思えます。
- ・教職員チームの皆で考えて行った指導が、バッチリはまった時、とても嬉しくなります。
- ・例えば、子どもたちが学習課題に繰り返し取り組み、試行錯誤して手立てを考え、その手立てが上手くいき、課題を克服できた時の、笑顔や誇らしげな表情が見られた時。魅力ややり甲斐を感じます。
- ・指導の方法が何通りもあること。同じねらいを持った学習内容でも、関わる子どもの実態や教員によって、考える道筋がいろいろあるので面白いし、日々新しい発見があります。

多くの回答をいただき、誠にありがとうございました。今回掲載できなかった声も、今後紹介していきます。また、大学生や高校生、中学生の声なども、紹介していきたいと考えています。